

1 この科目の構成について

教 科	地歴・公民科	科 目	日本史B	単 位	3単位
対象コース	情報ビジネスコース	対象クラス	2年6組		
使用教科書	高校日本史B（山川出版社）				
使用副教材	授業用プリント				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってもらいたいと思います。	
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。 ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へと変化していったことを学びます。 ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。 ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。	
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
（１）学校 １）授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。 ２）その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。 ３）重要語句の整理と理解を授業時間内にして欲しいです。 （２）家庭 １）予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。 ２）授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど） ３）随時宿題を課すので、解答して提出すること。	

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何を使って評価するのか—
①定期考査：年５回の定期考査。 ②宿題：適宜、宿題を出します。正確に解答して提出すること。 ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。	
評価における定期考査の割合	
70%	

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
（１）関心・意欲・態度 歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。 （２）思考・判断 アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。 （３）技能・表現 教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。 （４）知識・理解 習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。	

年間学習計画				—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—				重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目		学 習 の 内 容		関	思	技	知		
1	4	第1章 古代社会の形成 1. 日本文化のはじまり		①「日本人」の形成について、新人の日本列島への移動などを通じて把握させる。 ②温暖化がもたらした縄文文化の発展について、土器や生業の変化を通じて把握させる。〈道德教育を実施〉			●	●	●		
		2. 農耕の開始		①鉄器や農耕の伝来がもたらした大きな意義を把握させる。 ②中国の史書の基本的な理解力を養う。			●	●	●		
	5	3. ヤマト政権と古墳		①古墳築造の意味やその変遷の理解を通じて、ヤマト政権の成立過程を把握させる。 ②史書や金石文の基本的な理解力を養う。 ③4～5世紀の中国・朝鮮の情勢変化が日本にもたらした大きな意義について把握させる。 ④ヤマト政権の豪族間の抗争のなかから、やがて蘇我氏主導の推古朝の政治が飛鳥で始まることを把握させる。 ⑤飛鳥文化と中国南北朝文化との関連性について理解させる。 【第1回考查】		●	●	●	●		
		第2章 律令国家の形成 1. 律令国家の成立		①大化の改新から天智・天武・持統朝にかけて、律令制が形成されていったことを理解させる。 ②律令体制の基本的しくみについて理解させる。 ③平城京遷都の歴史的意義について理解させる。 ④藤原氏の進出と聖武朝の政治について理解させる。		●			●		
		2. 律令国家の繁栄		①律令制度の確立と国史編纂事業が関連していること、『万葉集』編纂の意義を理解させる。 ②国家仏教の意味とその歴史的背景、仏教美術について理解させる。			●		●		
		3. 律令国家の変質		①桓武・平城・嵯峨天皇の時期の遷都・蝦夷征討・政治改革について理解させる。 ②弘仁・貞観文化について、密教と漢文学を中心に理解させる。 【第2回考查】		●	●	●	●		
	7	第3章 貴族政治の展開 1. 摂関政治		①藤原北家の台頭とその背景にある外戚関係、摂関政治の誕生について理解させる。 ②10世紀初頭の唐の滅亡が、日本を含む東アジア全体に及ぼした影響について理解させる。		●		●	●		
		2. 国風文化		①かな文字の発達が、日本の文学史上に大きな影響を与えたことを理解させる。 ②浄土教普及の背景とその文化的影響について理解させる。		●	●	●	●		
		3. 荘園の発達と武士の台頭		①10世紀における律令政府の地方支配の困難化と国司の権限強化について理解させる。 ②寄進地系荘園発達の背景について理解させる。 ③都から下った辺境軍事貴族が、地方の武士をまとめ武士団を形成することを理解させる。		●		●	●		
	2	8	第4章 武家社会の形成 1. 院政と平氏の台頭		①摂関政治を否定して院政が成立してくることを理解させる。 ②院政の矛盾のなかから、やがて平氏政権が誕生してくることを理解させる。		●		●	●	
			2. 鎌倉幕府の成立と発展		①治承・寿永の乱の過程で、律令制的な国家制度とは別に、主従制度を根幹とした東国の幕府制度が誕生してくることを理解させる。 ②鎌倉幕府の初期の職制を理解させる。 ③執権政治の確立過程と御成敗式目制定の関連性を理解させる。 ④地頭領主制の内容と荘園侵略を理解させる。		●		●	●	
9		3. 蒙古襲来と幕府の衰退		①蒙古襲来と得宗専制政治の確立の関連性を理解させる。 ②地頭の窮乏化による幕府の基盤の動揺を理解させる。		●	●	●	●		
		4. 鎌倉文化		①鎌倉新仏教の教えと民衆への浸透の背景を理解させる。		●	●	●	●		
						●	●	●	●		

3	10	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立	②武士の台頭と鎌倉期の文学・建築との関連性を理解させる。 【第3回考查】	●		●	●
			①鎌倉幕府の滅亡から建武の新政にいたる流れを理解させる。 〈道德教育を実施〉		●	●	●
			②南北朝の動乱期を通じて、守護大名を基盤に室町幕府が成立していった過程を理解させる。	●	●	●	●
			③足利義満による「日本国王」化と王権簒奪構想、守護大名の圧伏と将軍権力の強化について関連させながら理解させる。			●	●
	11	2. 下剋上の社会	①足利義教以降の室町幕府権力の衰退を、各種の争乱・政変・一揆を通じて理解させる。	●		●	●
			②惣村の発達とそれを支えた室町期の経済を関連させて理解させる。	●		●	●
			③倭寇と日明貿易・日朝貿易の関連性、琉球王国・蝦夷ヶ島における豊かな交易活動を理解させる。	●	●	●	●
		3. 室町文化	①南北朝文化・北山文化・東山文化それぞれの文化を、五山・十刹の制、惣村の発展、禅宗と関連させて理解させる。	●			●
	12	4. 戦国の動乱	①戦国大名が、検地・分国法などを通じて分国を一円支配していったことを理解させる。〈道德教育を実施〉	●	●	●	●
			②戦国大名領のほかに、本願寺・一向一揆による支配地域、堺・博多・京都などの自治都市があったことを理解させる。 【第4回考查】	●		●	●
		第6章 幕藩体制の成立 1. ヨーロッパ人の来航	①大航海時代と南蛮貿易、鉄砲伝来などの影響を理解させる。	●			●
			②豊臣政権による太閤検地・刀狩などの兵農分離政策を、戦国時代の土地制度・身分制度と比較しながら理解させる。	●		●	●
	1	2. 織豊政権	① 統一政権・南蛮貿易と桃山文化の関連性を理解させる。	●		●	●
		3. 江戸幕府の成立	①徳川家康から家光にかけての3代将軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。	●	●	●	●
			②鎖国体制の成立過程を理解させる。		●	●	●
			③町・村などの共同体が、近世社会の基本的な中間団体であることを理解させる。〈道德教育を実施〉			●	●
3	1	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定	①4代将軍家綱から7代将軍家継までの時期に、武断政治から文治主義に幕府の大名統制政策が転換していったことを理解させる。		●	●	●
			② 将軍権威の維持と朝廷宥和政策の関連性を理解させる。	●		●	
		2. 経済の発展	①農業や漁業技術の発展により生産力が格段にあがり、近世社会の経済的基盤を形成したことを理解させる。			●	●
			②交通・流通、株仲間などの商業組織、貨幣制度の整備により江戸時代の経済が安定期を迎えたことを理解させる。		●	●	●
	2	3. 元禄文化	①文治主義により儒学が幕府の保護を受けつつ発展したこと、その儒学思想の展開が様々な学問の発展に影響を与えたことを理解させる。	●	●	●	●
			②上方町人を中心に、元禄文学である浮世草子・人形浄瑠璃が隆盛を極めたことを理解させる。	●		●	●
		第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	①享保の改革から天保の改革にいたる幕政改革を理解させる。	●		●	●
			②幕政改革の背景にある生産力の発展、剰余の成立とその収奪、商品経済の発展、地主制の進展、百姓一揆、三大飢饉を関連させて理解させる。		●	●	●
	3	2. 幕府の衰退と近代への道	①幕藩社会の転換期、動揺期とされる田沼時代に即応した文化・学問について理解させる	●	●		●
			②欧米列強の接近とそれに対する幕府の対応を理解させる。	●		●	●
			③天保の改革の失敗後の幕府権力の衰退について理解させる。	●	●	●	●
			④幕末の藩政改革に成功した薩長雄藩の台頭について理解させる。 【第5回考查】		●		●
	3	3. 化政文化	①寛政・天保の改革で弾圧を受けながら、化政文学の諸ジャンルが誕生していったことを理解させる。	●		●	
			②国学、蘭学など実証的学問の成立、各藩の教育、安藤昌益の思想などを理解させる。	●	●		●

--	--	--	--	--	--	--	--

期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知

期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知